

韓鶴子総裁 2026 年ノーベル平和賞候補に推薦

要点

- 家庭連合・UPF 共同創設者の韓鶴子総裁が 2026 年ノーベル平和賞候補に推薦された（2026 年 4 月 3 日、UPFI 発表）
- 推薦者は前 EU 信教の自由特使ヤン・フィゲル氏（現・欧州信教の自由フォーラム会長）
- 推薦理由は「国家間の友好関係の増進」、具体的には宗教間対話、朝鮮半島平和、国連 NGO 活動など
- ノーベル賞ノミネーションは選出を意味するものではなく、ノルウェー・ノーベル委員会は毎年数百件を受領

UPF インターナショナル（UPFI）は 2026 年 4 月 3 日、世界平和統一家庭連合（家庭連合、旧統一教会）の韓鶴子総裁が 2026 年ノーベル平和賞候補に正式に推薦されたと発表した。推薦者は前欧州連合（EU）信教の自由特使のヤン・フィゲル氏で、同氏は現在、欧州信教の自由フォーラム（FOREF Europe）の会長を務めている。

推薦理由の 6 項目

フィゲル氏による推薦書は、韓総裁の数十年にわたる平和構築活動を評価し、以下の主要なイニシアチブを挙げている。

- 諸宗教間協力: 世界中の数千人の「平和大使」任命
- 朝鮮半島平和イニシアチブ: 国際「希望の集会」サミットの組織化
- 人道的評価: スンハク平和賞の設立
- 国連との関与: UPF と世界平和女性連合が ECOSOC 総合協議資格を通じた協力
- 38 度線平和イニシアチブ: 朝鮮非武装地帯（DMZ）への国際平和公園構想
- 文化外交: 韓国リトルエンジェルズ子供民俗バレエを通じたアウトリーチ

推薦者のコメント

フィゲル氏は推薦書で「韓鶴子博士は、対話、協力、人間の尊厳への敬意に根ざした平和構築への生涯にわたる献身を示してきた」と述べた。UPFI 会長のタゲルディン・ハマド博士も「機関構築、グローバル対話、人道的関与、文化外交を通じて、彼女は協力が花開くプラットフォームを作成してきた」とコメントしている。

ノミネーションの位置づけ

UPFI は発表文で、ノーベル平和賞のノミネーションは機密であり、ノルウェー・ノーベル委員会は毎年数百件のノミネーションを受け取ると説明。「ノミネーションは選出を意味するものではないが、平和と国際協力への重要な貢献の認識を反映している」と付け加えた。

韓総裁は 1992 年に世界平和女性連合を、2005 年に UPF を共同設立した。UPF は国連経済社会理事会（ECOSOC）の総合協議資格を保有する国際 NGO である。